

平成28年8月19日

二本松市議会議長 様

会派名 公明党
代表者名 小林 均



視察研修報告書

本会派において、下記のとおり研修会に参加したので、報告いたします。

記

1. 研修名 平成28年度 第2回市町村議会議員特別セミナー
2. 研修日時 平成28年8月4日(木)～8月5日(金)
1日目 13時00分～16時30分
2日目 9時00分～12時30分
3. 研修場所 全国市町村国際文化研修所(大津市)
4. 講師等 別紙のとおり
5. 参加者 ①小林 均 ②
③ ④
⑤ ⑥
⑦ ⑧
⑨ ⑩



視察研修結果報告書

1 視察の目的

2025年の超高齢社会を見据えて、高齢者を取り巻く現状の認識と、それらへの適切な施策を提案できるようにするため、専門の先生方の講演を聞き、学習する。

2 視察結果若しくは成果

高齢社会の進展で生活習慣病の克服が大きな課題となっている。その解決策の一つは予防施策である。全国約50の自治体で運動と食事による健康サービスのICT化により一定の生活習慣病の予防効果、及び医療費の抑制効果が表れている。(見附市では年間1人約10万円)

しかし、本市を見てもわかる通り、残念ながら、大きな政策転換には至っていない。そこで、筑波大学大学院の久野譜也は、歩いて暮らせるまちづくり「Smart Wellness City」を提唱する。

1、市民が便利さだけを追求しすぎない生活を許容できる

2、それをサポートするために、

①社会参加(外出)できる場づくり(賑わいづくり)

②自助を強める施策(インセンティブとリテラシー)

③快適な歩行空間整備

④過度な車依存から脱却を支援できる公共交通の再整備

⑤まちの集約化

「意図しなくても、自然に歩いてしまう都市づくりがこれからの健康都市の方向性である。そのためには、都市の集約化、歩行空間と公共交通の整備、街の賑わいなどが必要で、この方向性は、健康課題だけでなく、多くの地域課題も併せて解決することが期待される。」(久野譜也)

※ 添付資料(視察資料、写真、説明者の名刺(写)、行程表 等)

報告者氏名 小林 均

平成28年度 「第2回市町村議会議員特別セミナー」 時間割

(敬称略)

月日	曜日	9:00-	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00~)			
8/4	木			11:00-12:00 受付 11:30- 昼食	【講義】(13:15-14:45) 医療機関・住民とともに地域 医療を支える取組 自治医科大学 地域医療学センター長 梶井英治	【講義】(15:00-16:30) 地域まるごとケア (医療の現場から) 東近江市永源寺診療所 所長 花戸貴司		16:30- 入寮オリエンテーション			
				13:00- 開講・日程説明				2階【講堂】	2階【講堂】	2階【講堂】	2階【講堂】
											17:30- 交流会
				2階【講堂】				1階【大食堂】			
8/5	金	【事例紹介】(9:00-10:30) 介護予防の公的責任と自治体 埼玉県和光市保健福祉部 部長 東内京一	【講義】(10:45-12:15) 地域を健康にするまちづくり -Smart Wellness City- 筑波大学大学院 人間総合科学研究科スポーツ医学 専攻 教授 久野譜也	12:15-12:30 閉講・事務連絡、							
				2階【講堂】	2階【講堂】						

◎日程は、都合により変更になる場合があります。

(平成28年6月30日現在)

名札の色：白色、研修担当：吉野、渡邊

講 師 紹 介

◆梶井 英治 (かじい えいじ) 氏 自治医科大学 地域医療学センター長

1978年自治医科大学卒、1978年鳥取県医務課技師吏員、鳥取県立中央病院にて研修後、町立日南病院内科、町立智頭病院内科に勤務。1998年地域医療学教授、1999年総合診療部部長、2004年地域医療学センター地域医療学部門教授、2008年地域医療学センターセンター長。現在は、総合医の育成、そして地域医療に関わる研究活動に従事しながら、地域医療の充実へ向けて地域における啓発活動に取り組む。

【委員等】

総務省「定住自立圏構想の推進に関する懇談会」、厚労省「へき地保健医療対策検討会」「地域医療再生計画有識者会議」、文科省「医学教育モデルコアカリキュラム改訂に関する専門委員会」

【主な著書】

地域医療白書1、へき地医療の現状と課題 (自治医科大学)
地域医療白書2、これからの地域医療の流れ (自治医科大学)
地域医療白書3 安心して暮らせる医療づくり (自治医科大学)
地域医療テキスト (自治医科大学監修)

◆花戸 貴司 (はなと たかし) 氏 東近江市永源寺診療所 所長

1995年自治医科大学医学部卒業、滋賀医科大学研修医、1997年湖北総合病院小児科医師、2000年永源寺町国民健康保健診療所所長、2005年東近江市永源寺診療所所長 (市町村合併による名称変更のため)

【受賞歴】

2015年11月京都新聞大賞 教育社会賞

【主な著書】

ご飯が食べられなくなったらどうしますか～永源寺の地域まるごとケア～ (農山漁村文化協会)

◆東内 京一 (とうない きょういち) 氏 埼玉県和光市保健福祉部 部長

埼玉県和光市役所入庁後、税務課・国民健康保険担当課等を経て、2000年より介護保険室に配属。その後、機構改革により高齢者福祉所管と介護保険所管を統合した長寿あんしん課で課長補佐・介護福祉担当総括主査・地域包括支援センターリーダー・後期高齢者医療担当総括主査を兼務、地域性を重視した介護保険事業運営を中心に保健・医療・福祉政策を構築し地域包括支援体制を推進。2009年4月より厚生労働省老健局総務課課長補佐に就任、2011年4月より介護サービス調整官、振興課課長補佐等を併任し、地域包括ケアシステムを念頭に置く介護保険法等の改正や介護保険事業計画策定業務及び地域包括支援センター機能強化業務等に従事し、2011年10月より和光市保健福祉部長寿あんしん課長で帰任、2012年4月に保健福祉部次長を経て、同年10月1日より現職。

【委員等】

厚生労働省所管老人保健健康増進等事業「地域包括ケア・介護予防研修センター運営委員会委員長」「地域包括支援センターの在り方に関する検討委員会委員長」「認知症高齢者に対応するまちづくりチェックリスト作成委員会委員」「介護予防・運動器向上マニュアル作成委員会委員」「介護予防・生活機能評価マニュアル作成委員会委員」、総務省所管自治総合センター事業「地域の活性化に関する研究会委員」等

【主な著書】

これからの介護予防・地域ケア (サンライフ企画出版)
介護保険の公的責任と自治体 (自治体研究社 共著)
地域包括支援センター実務必携 (オーム社 高橋紘士編・共著)

(裏面へ続く)

五 (2) (天 (1) (2) 告英 技野 ◆
員一々くサ学職司職此 学大科国自

類南日立事 若兼了了司部南中央立類双員 員主研司有術理兼類此手3721 本学大科自手が以
職司年出主4005 長時胎系包含類手0321 野姓学職司加手3821 専横コ目内部南類立事 科内
手 和育の司合職 司引野 員一々くサ一々くサ学職司加手3805 野姓門部学職司加手一々くサ
類コ類主長者るもはコ類加つれ向へ支先の職司加手 一々くサ学職司加手3805 野姓門部学職司加手一々くサ

◆久野 譜也 (くの しんや) 氏
筑波大学大学院 人間総合科学研究科スポーツ医学専攻 教授

1992年筑波大学大学院博士課程医学研究科終了、1992年東京大学助手 教養学部保健体育科、1994年Pennsylvania大学医学部 (米国) 客員研究員 (文部省在外研究員)、1996年筑波大学講師体育科学系、2002年株式会社つくばウエルネスリサーチ代表取締役社長兼任、2004年筑波大学大学院人間総合科学研究科 助教授 (2007年～准教授)、2011年から教授

【受賞等】

2003年内閣府産学官連携功労者表彰 科学技術政策担当大臣賞受賞
2008年経済産業省 創業・ベンチャー国民フォーラム Japan Venture Awards 2008 起業家部門委員長特別賞受賞

【委員等】

内閣官房「環境未来都市推進委員会委員」 「IT戦略本部・新戦略推進専門調査会 医療・健康分科会委員」、総務省「クラウド時代の医療ICTの在り方に関する懇談会委員」、国土交通省「健康・医療・福祉のまちづくり研究会委員」、経済産業省「健康サービス標準化検討委員会委員」、文部科学省「今後の地域スポーツ推進体制の在り方に関する有識者会議委員」 「スポーツ庁の創設に向けた検討会議委員」

【主な著書】

- 寝たきり老人になりたくないなら大腰筋を鍛えなさい (飛鳥新社)
- 寝たきりにならない! 1日5分大腰筋エクササイズ (宝島社)
- 筋トレをする人が10年後、20年後になっても老けない46の理由 (毎日新聞出版)
- 「認知症」「寝たきり」になりたくないならば筋肉を鍛えなさい (PHP研究所)
- 寝たきり老人になりたくないならダイエットはおやめなさい (飛鳥新社)